

進捗報告書（実行団体）

事業名:	食と遊びによる子育てサポート事業
資金分配団体:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	認定NPO法人CPAO
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	大阪府及び近郊地域
事業対象者:	経済的・精神的に厳しい状況に置かれている親子

Version 1.2

日付: 2021年3月29日

I. 事業概要

事業概要
○週3～4回、200食の宅食・宅配を通し、各家庭の家事サポートを行う。そこでの子どもたちへの食や遊びの提供から各々の家庭内の問題に着手し、家事・育児サポートを行っていく。(ホットミールプロジェクト) (子育てサポーター事業)
○隔週週末は親子を和歌山県橋本市の里山活動拠点に招待してお泊り会を行う。より関係性を深め、サポートへとつなげていく。(週末別荘計画)
○他の週末は、食や遊びに関する各種イベント等に子どもたちを参加させ様々な機会提供を行う。(CPAO Kitchen・CPAOくらぶ)
○仮称キッチン&パークの設置により、いつでも子どもたちを預かったり、相談を受けたり、食事提供ができる拠点を確保し、アウトリーチ活動の効果を高める。

II. 進捗報告の概要

総括
食事や遊びの機会提供などは順調に進んでいる。当初、「キッチン&パーク」として活動拠点を確保し、その場所での活動を進める計画においては、物件の確保に手こずり、またちょうど2度目の緊急事態宣言なども相まって遅延があった。しかしリノベなどにも親子に少しずつ参加してもらい、それがプログラムともなって「キッチン&パーク」の要素を成してきており、完成後の親子それぞれの居場所としても機能性が増してきている。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
○宅食や宿泊・遊びへの参加などを通して、より生活に入り組んだ問題への着手を行える。 ○いつでも駆け込める拠点の設置により、アウトリーチを積極的に行える。	○毎週100食の食事を届けながら50世帯以上の親子と関係性を深めている。そこから子どもたちは和歌山県橋本市の里山活動拠点にお泊り会に行ったり、個別で近くの公園などにも連れて行って遊んだ。またお母さんは買い物や洗濯などの家事をサポートし、親子共に様々なサポートを重ねながら、そこから信頼度を深め、抱えられている問題にも着手していった。 つながった子どもの数：1646人、食事提供数2300食 ○いつでもかけこめる場所としては、毎月第3土曜日に子育てなんでも相談会を開催。そこにも毎回参加されながら、回数を重ねるたびに問題の吐露が深まっているお母さんもいる。 また現在リノベをしながらの活動拠点においても、そのガレージスペースでBBQを行ったり、相談を受けたりと活用している。相談体制も充実させるため、4月からは新たな相談担当を雇用することも決まった。 子育てサポーターの出動回数：60回 相談会の実施：5回 相談件数：80件 リノベなどの活動拠点での活動参加人数：130人

活動	進捗状況	概要
<p>○子どもたちへの宅食・相談とそこからの家事・育児サポート (ホットミールプロジェクト)(子育てサポーター事業)</p> <p>○里山活動拠点での宿泊受け入れ(週末別荘計画)</p> <p>○各種イベントへの参加機会提供</p> <p>○仮称キッチン&パークの設置</p> <p>○キッチン&パークの稼働(アウトリーチ、子ども預かり、相談受付)</p>	ほぼ計画通り	<p>○毎週100食のペースで惣菜を作り、遠方は発送、主に大阪市内は配達としている。フライものや量の多いものは大きい男の子のいつ家庭、ヘルシーなもの時は女子の家庭へなど、献立によって振り分けをし、それぞれの家庭に合わせた追加食材も入れている。</p> <p>訪問によって会えた際には、会話の内容から様子を窺ったり、相談に乗ることもあったり、イベントへの参加の確約なども行い、他の活動へとつなげている。</p> <p>○コロナ禍から、少人数での対応として、週末のみならず、平日の日帰りや、里山以外でのお泊りなども含めて対応している。夏場は川遊びなどがあったが、秋からは山登りやランニングなどのプログラムを取り入れ、コーチボランティアにも入ってもらって対応している。</p> <p>○キッチンカーの出店、プレーパーク、相談会などを実施。</p> <p>○契約と工事を遅延したが、リノベ自体もプログラムとして活用。4月に完成・運用の予定。</p> <p>○キッチンカー出動や相談会にてアウトリーチを実施。相談件数も増え、毎日数件の対応ともなり、相談対応を雇用することになった。</p>

IV. 事業実施後(1年以降)に目標とする状態への所感(中間時点)

自由記述
<p>今回もできる限りのサポートを続けてはきたが、特に閉じてしまう傾向にある昨今の状況では、平素過ごす環境が変わらなかつたり、自らの意思で環境を変えない限り、問題の修復は難しい。</p> <p>そこで子どもたちとはそれぞれのニーズに応えたプログラムを充て、年齢や置かれている環境にも即して、社会や大人、環境の可能性を感じ取れる機会を提供していく。最終的には自ら求めてこれらようになった時点で次のステップに進めるような関係性を残して。</p> <p>また親はさらに「子どもの養育責任はすべて自分にある」「頼ってはいけない」というような固定概念が強い傾向にあるため、定期的な宅食による訪問時の会話に加え、そこからの家事・育児のサポート、そして活動拠点などでの就労サポートに参加していただき、生活丸ごとサポートをできる体制を強化していく。</p> <p>他にも高校生や社会に出ていく子どもたちをも対象に、就労の機会提供から、やりたいことをやれる社会の実現に向けて進めていける流れも作っていく。</p> <p>こういった内容は就労移行支援事業も行い、その枠の中にもつなげていくが、やはりどんな親子でも受け入れていくためにも制度外でサポートできる体制が必要になる。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥4,440,000	¥4,460,000	¥8,900,000	¥3,455,393	39%
	管理的経費	¥930,000	¥1,200,000	¥2,130,000	¥748,855	35%
合計		¥5,370,000	¥5,660,000	¥11,030,000	¥4,204,248	38%
補足説明		特になし				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>弊団体が準備を進める場所は、子どもたちの遊びやくつろぎ、学びの場所として、またお母さんにとっても安心して訪れ、信頼できる人が在住する場所として、また親子共に「お金を持たずとも食べられる」場所(レストラン)として機能するように整備してはいるが、同時にアウトリーチや対象者を分かりやすく限定しないための他団体との協働で行う外部のスペースにおけるプログラムにおいては、やはり安定しないコロナ禍のため、中止・延期といった状態が少なくない。</p> <p>広報的にもオープンにしすぎると自粛警察といったような地域の方からの圧力もあり、現状では安易に発信が行いにくい状況にある。</p> <p>そこで毎回の活動における参加者(親や子ども)は、その対象のマッチングやプログラム・就労内容から調整を行っている。また、活動拠点だけの活動とせず、3密となりにくい公園や自然の中でのプログラムとしたり、家族限定、少人数での受け入れで里山拠点でのお泊り会を実施している。</p>

Ⅶ. その他

自由記述
特になし

Ⅷ. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	2019年度の活動報告書が作成できなかったことから、本年5月の団体設立記念日を目標に2年分の報告書の作成を

Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設け、事務所内への提示で周知。